

PROGRAM NOTE

1982

近藤譲：散形式

トロンボーンとピアノのための

Forme semée

for Trombone and Piano

《散形式》は、1982年に、トロンボーンとピアノの二重奏のための作品として書かれた。この曲でのトロンボーンには、丸く柔らかな、言わば、ややホルンやユーフォニアムに近い音色が求められていて、そのために、全曲を通じてハットミュートを着けて演奏するように指示されている。その意味で、この作品のユーフォニアムによる演奏は、曲本来の意図を損なうことなしに、むしろ、その音色的な特徴を強く引き出すことになるだろう。

タイトルは、17世紀後期フランスのリュート曲作曲家ドニ・ゴティエの名と共に知られている「スティル・ブリゼ」style brisé（“散らばった様式”とでも訳せるだろうか）——つまり、一つの和音の構成音を同時に奏さずに、一つの小節内いっばいに散らばって配置する書法——に由来している。とはいえ、私の「散形式」は、和音の分散ではなく、むしろ、旋律線の分散である。この作品は、基本的に、一本の「線」から成り立っており、この一本の「線」は、トロンボーンとピアノの二つのパートに常に不規則に分散して振り分けられながら、和音や単音の入り混じった連なりとして、太くなったり細くなったりしながら、全曲を通じて切れ目のない持続を作り出している。

近藤譲

初演：1982年11月（東京）

初演者：萩谷克己（トロンボーン） 土屋律子（ピアノ）

委嘱：萩谷克己

出版：University of York Music Press (UK)

演奏時間：10分